

高級娼婦の 売国マゾ化 調教 最終話

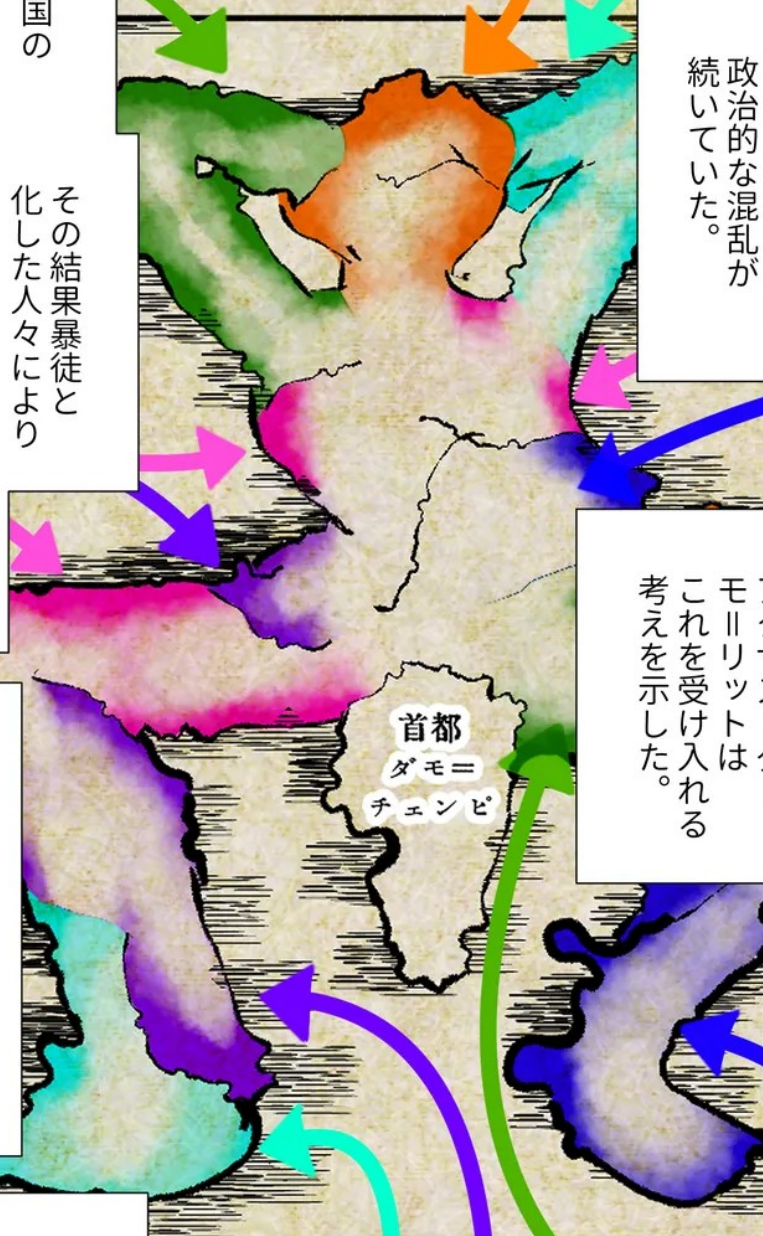


～冒洩射精編～

前回までのあらすじ
見分を広めるため、大帝国デソーで外遊していたダモゾ王国第二王子アクサス＝ダモ＝リットは、高級娼婦アイリンティティの豊富な肉体と淫らな性交にのめり込んでしまい、持っていた財産、想いを寄せていた従者のユイキャナを手放したあげく、自らも借金の担保としてアイリンティティの元に捕らえられ貞操帯で射精を管理されながら弄ばれることに。一方で、彼の父と兄であるダモゾ王国の国王と王太子はアクサス救出のため画策するが失敗し洗脳されたユイキャナと、帝国のスパイであるサイレンチーンによって暗殺されてしまう。すべては帝国皇女のエカテリア＝ダモゾ＝ドライツェルンによるシミのように目障りな隣国の抹消計画だった――

Kingdom Damozo

ダモゾ王国



国王と王太子の崩御を受けデールソー帝国で外遊から帰国したアクサス第二王子。

アクサスは新王に即位したがダモゾ王国では政治的な混乱が続いていた。

これを受け帝国は邦人保護を名目に帝国軍をダモゾへ派兵。

ダモゾ新王アクサスIIはモリットはこれを受け入れる考えを示した。

その振舞いは明らかに帝国の邦人保護を超えダモゾを支配下に置こうという意図が丸見えであったが

世間では帝国の謀略により国王と王太子が暗殺されたとの噂も広がり治安が悪化。

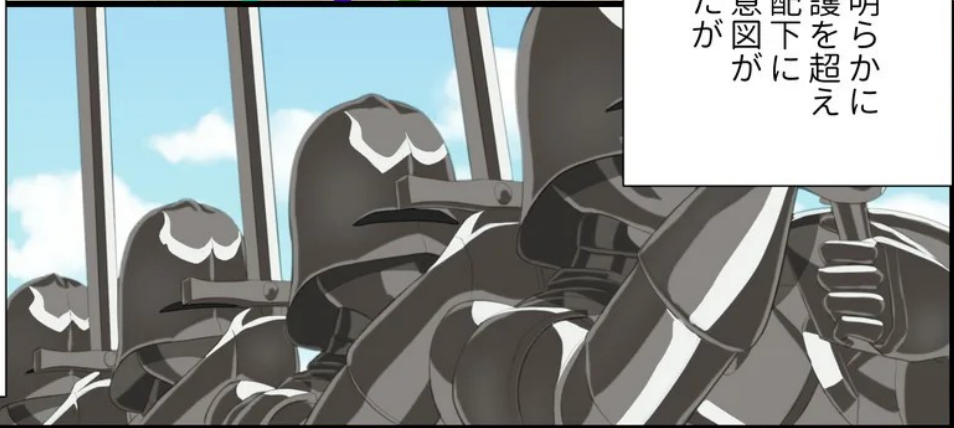
その結果暴徒と化した人々により

ダモニチェンピに滞在していたデールソー人が殺害されるという事件が起こる。

瞬く間に帝国軍はダモゾ全土を掌握。有力な帝国貴族によって王国は分割統治されることとなった。

混乱により疲弊しなおかつその玉座に重大な弱みを持つていた王国は

もはや帝国の魔の手から逃れることはできなかった――



本作はフィクションであり、実在の人物・団体とは一切関係がありません。登場人物は全て成人しています。
また、作中で行われている行為を現実で行うと、罰せられたり健康に被害を受けたりするなど不利益を被る可能性があります。
18歳未満の方による購入・閲覧・所持、及び18歳未満の方に本作を販売・貸与・譲渡するまたはその他の方法で閲覧させることを禁じます。
本作品を閲覧した結果、何らかの不利益を生じたとしても作者は一切の責任を負いかねます。
本作品の全てまたは一部、本作品を加工や翻訳したものを無断で販売・複製・複写・転載・アップロードすることを禁じます。





それにしても
アクサス陛下…
帝国の傀儡にされて
しまうなんて…
お可哀そうに…

言うな！

だからこそ我々で
お助けするのだ！
そうでしょう？



陛下にはもう
お伝えした！
決行は今夜だ

行くぞ!!!

おおおおおお!!!



だからこそ今の陛下の
ご様子がなんとも
おいたわしい…

この命に代えても
お助けしたい—



ああ—
陛下の幼少期から
ずっと見てきたのだ



さすがは陛下の
おじい様の代から
仕える大臣閣下だ！

みんな
聞いたな！

俺たちもこの命
ダモルゾ王国と
アクサス陛下に
捧げるぞ!!







半年後――

お願いします!!

射精させて
射精させてええ――

はぁ

はぁ

うふふ

最近は裏切り者も
すっかりいなく
なっちゃいまい
ましたものねえ

様子を見に来てみれば
相変わらずいぶんと
情けない王子だことね

忠臣を根こそぎ
売ってしまったん
ですってね?

グリ

帝国にとっては
ずいぶんありがたい
ことだけれど

グ



王宮前の広場に市民が
押し寄せています！

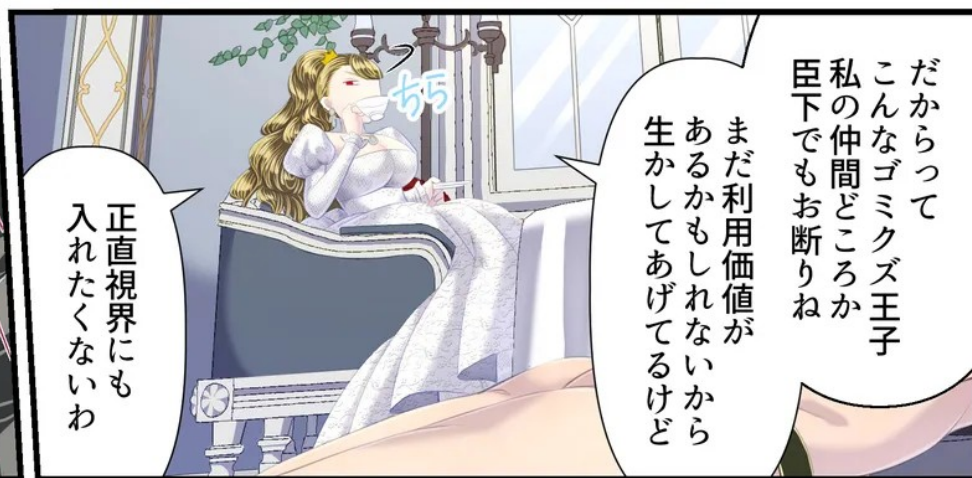
申し上げます！



毎日毎日
食べ物にも媚薬
体を洗うにも媚薬

さらにひたすら私の
秘儀を尽くして
焦らしてあげましたら

すっかり従順に
なうんでも捧げて
くれるように
なりましたわ



だからって
こんなゴミクズ王子
私の仲間どころか
臣下でもお断りね

まだ利用価値が
あるかもしれないから
生かしてあげてるけど

正直視界にも
入れたくないわ



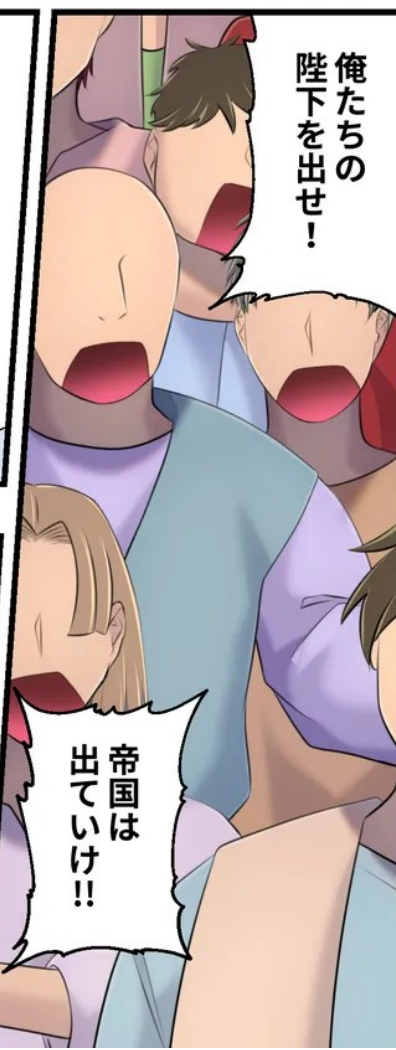
何を言っているの？
絶好の機会じゃない

あらあら…
どうしましうかしら



本当に臣従するべきは
誰なのかを
教えてあげましょう

あの愚民たちに
己の王がどれほど
情けない存在か…



俺たちの
陛下を出せ！

帝国は
出ていけ！！

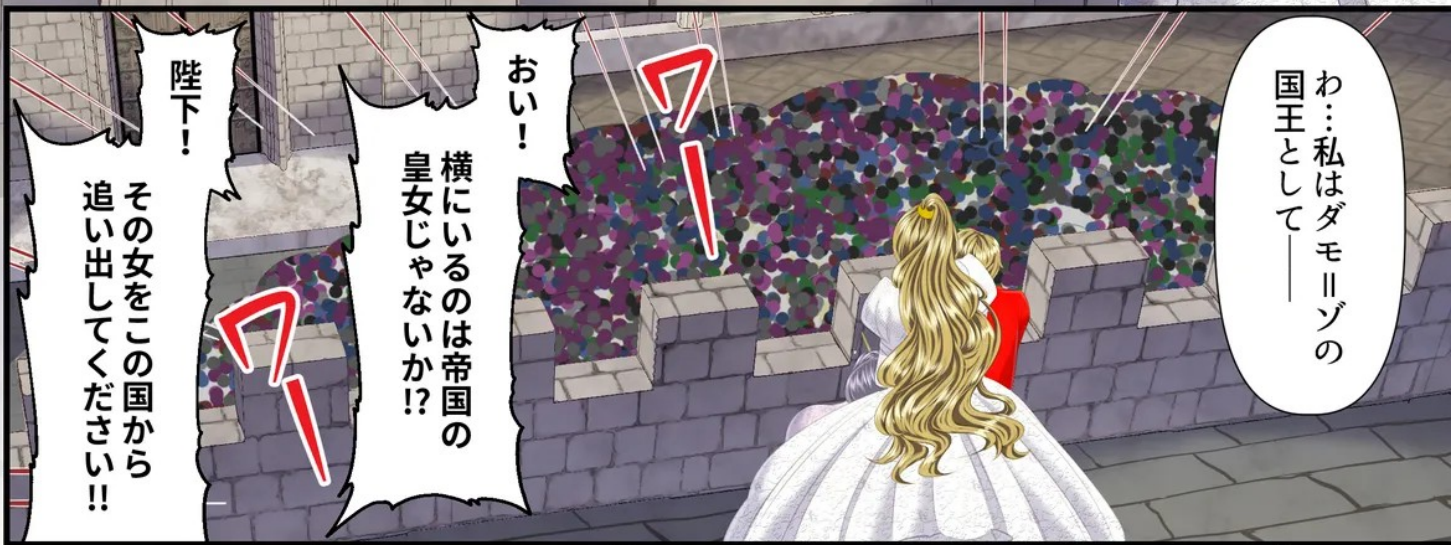


さあ
さっき言った通りに
しなさい——



おお!!
陛下だ!!

陛下
共に戦いましょう!!



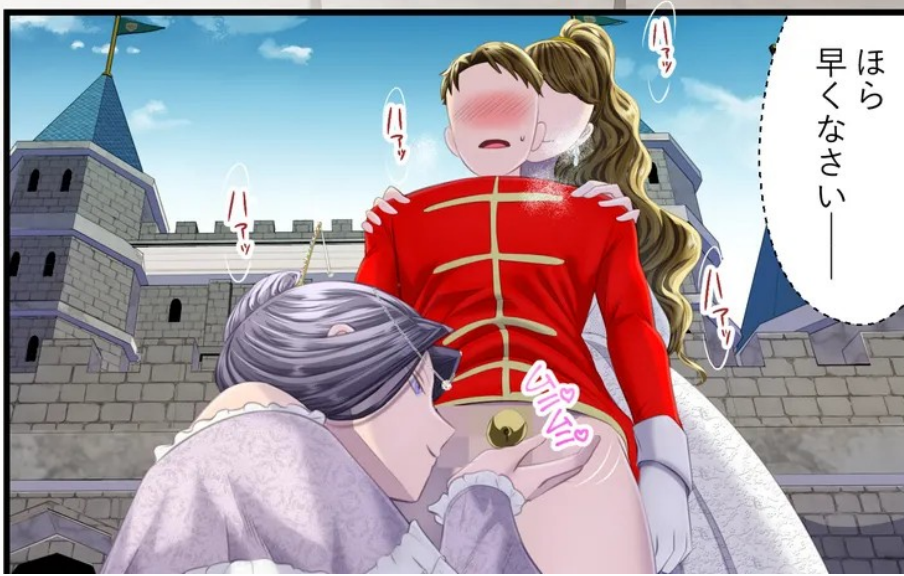
わ：私はダモルゾの
国王として——

おい!

横にいるのは帝国の
皇女じゃないか!?

陛下!

その女をこの国から
追い出してください!!

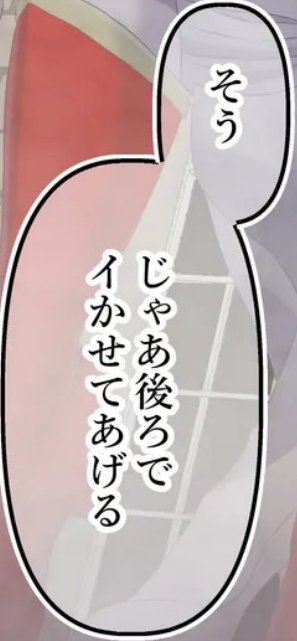


ほら
早くなさい——



ッ……







あぁっ

おほおおっ!!

ほら
嬉しいんでしょう?

だったらもっと
楽しそうに
尻を振りなさい

はっ
はいっ♡♡♡♡

うふふっ
惨めな姿ねえ

あひっ♡

自分の国を支配しに
来た皇女に衆人環視で
尻を犯されて:

下品にやがり声を
あげているなんて
それでも国王なの?



あなたみたいなの
クズに国王だなんて
ふさわしくないわねえ？

僕はっ♡
国王矢格
でしゅうっ!!

あなたに従うよりもつとふさわしい主君が民にはいるはずよねえ？

だも!!ゾ王国は
デソー帝国に服属
するべきでしゅうっ!!

あゝあ
なんて惨めな
国王なこと

でもあなたは
その快感の
虜になつて
しまったものね



忠臣を一人一人
殺されて



領土分割の
宴を開かれて



大切な従者を
売らされて

あんな王子のせいで
こんな目に遭つちまつてよお!



その度にとおつても
気持ちイイ射精を
体に植え込まれて

いつからか
売国射精が
だうい好きに
なつてしまつたん
でしょう?

そつ
それはあつ



あなたの
国民たちの前で

この国の最後の砦を
自らの手で壊しなさい



ほおら

最後にして
最高の売国射精



ぼっ
僕はあつ——

本日より
ダモルゾ王国は
デソー帝国の
属国となりつ——

ダモルゾ王家は
デソー皇帝の
配下となることを…

うふふ…
その言葉

皇帝名代としてこの
エカテリアアールデール
ドライツェルンが
確かに受け取ったわ

それじゃあ——

こころに時式に宣旨
こころにめううう——
!!!

この
売国奴

イけ

ああっ
——
!!!

売国射撃
最高うううっ
——
!!!

ああ
そんな……

なんて
ことだ……

俺たちの
陛下が
あんなに
情けなく

カラッ……

カラッ……

カラッ……



久しぶりに
射精ができて

よかったですねえ
陛下



ああ…
僕は…僕は…



それから…
少しご一緒
の顶きたい
のですが



なるほど

ここがダモルゾの
王族墓所
【永安の眠りの間】…

我が帝国ですら
再現できない
ダモルゾ王国の
防腐職人による秘術で

王族の遺体を
生前の姿のままに保ち
変わらぬ敬意の対象と
しているという—



ユイキヤナ!



ユイキャナ
何をしているんだ！

そんなこと
しなくていい！



あ……え……
男の人……？



ご奉仕しないと……



アクサス……
様……？

え……



でもその前にここへ
来たいというので
連れて来させたの
ですけれど

ついでにせめて
ひと目くらいは陛下に
会わせてあげようかと
思いました



ずいぶん働いて
くれましたが

彼女も所詮は
私の所有物

そろそろ売りに
出そうと思っていた
ところですよ

こんなになるまで
彼女を痛めつけて

また別のところに
売る…
だって—!?

そうですねえ…

それじゃ
こうしましょうか

そんな…
お願いだ

もう
やめてくれ…

これから陛下がこの
【永安の眠りの間】で
彼女を見守っている
間だけは…
私の手の者による
手出しは禁止…
とします

ただし…
ここから彼女を
逃がそうとしたり
陛下が彼女の元を
去ったりしたら

陛下はもう二度と
この女と会うことは
できなくなるでしょう

え—

ついでに
貞操帯も取って
さしあげましょう

ずいぶん
『ご奉仕』を
したがつている
みたいですからね

早い話がずっとこの
薄気味悪い部屋で
過ごしていなさい…
ということね

クサッ

でも
いいのかしら…？

聞いたことが
あるのだけど

ダモルゾの
防腐処理にも
限界はある…

王族といえど短い
時間しか参ることは
許されていないって

だからできるだけ
低い気温の地下に
この間を作り

——っ!!

そんな場所で
一日中過ごし…
時にまぐわったり
したらどうなる
でしょうね？

あなたたちの
体温は部屋の
気温に影響を与え

あなたたちの体から
出る体液は
空气中に飛び散り

その結果やがてここに
ある遺骸は徐々に
腐り出していく——

ああ…もちろん
そんなことになっても
防衛職人を呼んだり
なんかしないわよ

まさか国王陛下が
臣下の女と
【永安の眠りの間】で
交わったせいだ

遺体が腐食した
なんて知られたら
国を惑わすもの
になってしまうもの

だ…そうです
どうされますか
陛下？

申し出を受けない
のであれば私は

ユイキャナをそろそろ
連れて行かねば
なりません…

うふふっ
そうですか
そうですよねえ

やっと再会
できた想い人

しかも今となっては
陛下を認めてくれる
唯一の臣民と
言ってもいい！

どうしてそんな顔を
なさるのですか

私が最初に申し上げた
通りでしょう？ 陛下

ユイキャナと
添い遂げたければ
高級娼婦の元へ
行けばよい…とね

想いが叶って
よかったですね
陛下！

これからは陛下の
『たった二人の国民』を
守って

どうぞいつまでも
幸せに
お過ごしください！

腐り果ててゆく
あなたのご先祖様達の
前でねえ！

